流れ図2．1改
2　神楽祭（カグラマツリ）

1　夕方、森の入り口。

1）桜が咲いている。
↓
※何故、咲いているのか。
植えた桜が花を咲かせている。
↓
※何故、植えたのか。
森にある負の力を抑えるため、霊木の桜を植えた。

2）子供が森に入れと迫っている。
↓
※どの子供に迫っているのか。
引っ越してきたばかりの子供。
↓
※何故、迫っているのか。
ガキ大将が子供に度胸試しをしている。
↓
※何故、度胸試しをするのか。
ガキ大将が引っ越したばかり、しかも警察官の子供と言う事で生意気と目をつけ連れ出した。

↓
※何故、入れと言うのか。
入った事がなく、入れた試もない。
その為、適当にけしかけているに過ぎない。
どうせ入れないのだから、度胸試し程度しかない。
↓
※何故、入れないのか。
見えない壁のようなものが有り、弾かれる。

3）取り巻きの1人は、ガキ大将を止めようとする。
↓
※何故、止めようとするのか。
入れないし、大人が近づいてはいけないと言っている。
↓
※何故、近づいてはいけないのか。
入れば二度と戻れないと大人にさんざん言われている。
↓
※何故、さんざん言われているのか。
誰も立ち入りできない為、入っても捜索できない。

4）子供に勇気がない奴と罵り、けしかける。
↓
※何故、罵るのか。
大人の言う事をそのまま聞くのはバカのやることだと思っている。
↓
※何故、そう思うのか。

優等生的な考え方が好きではない。
自分は自分の好きにやる。

5）子供を押し、無理やり中に入れる。
↓
※どうやって中に入ったのか。
ガキ大将が桜の向こうへ押し込まれた。
↓
※何故、押し込まれたのか。
なかなか動こうとせず、ガキ大将がいら立った。
↓
※何故、動かないのか。
森が不気味に見えている。
↓
※何故、不気味に見えるのか。
若干の霊力があり、子供には不気味に見えている。

6）あっさり中に入れる。
↓
※何故、中に入れるのか。
霊力が桜により遮断されている霊力とかちあった。

7）子供は戻ろうとするが、戻れない。

↓
※何故、戻れないのか。
結界が再構築された為、
↓
※何故、再構築されたのか。
霊木の力により、再構築され負の力を遮断した。
内部からの力は一切干渉できない。

8）子供は後ろから来た闇に飲まれる。
↓
※何故、飲まれたのか。
力を維持しようとした負の力が、子供の魂を求め取り込んだ。
↓
※何故、力を維持するのか。
自分の存在を消滅させたくないという本能から、維持し続けようとする。

9）子供の一人は怖くなり逃げ、ガキ大将も大人に言えば怒られると言って逃げていく。
↓
※何故、怖くなったのか。
叫び声以降の静寂に恐怖を感じた。

↓
※何故、怒られると思ったのか。
大人の言った事が事実であり、その事実に反することをしてしまった後悔から逃げた。

2　翌日、森の入り口。

1）子供が戻ってこないと、捜索が行われている。
↓
※何故、戻ってこないのか。
子供が森に入り、負の力に取り込まれた。
↓
※何故、取り込まれたのか。
負の力は力を均衡に保つため、正の力を取り込もうとする。
子供が入った事で子供を取り込もうとした。
↓
※どうやって入り込めたのか。
子供は霊力に適応しやすく、更に霊木の力が弱まっているので、容易く符合してしまい入り込むことができた。
↓
※何故、弱まっているのか。
桜は花が咲き、花弁を散らす事で溜め込んだ霊力を地に拡散させる。
霊力が拡散してしまうがゆえに、霊木としての力そのものが少なくなる。

↓
※何故、捜索が行われているのか。
子供の1人が親に話し、そこから捜索願が出た。
一昼夜経っても戻らず、ガキ大将達も森に行って飲み込まれたと証言したのでここを捜索している。

2）警察はガキ大将から話を聞く。
↓
※どういう話をしたのか。
あいつが勝手に森に入った。
↓
※何故、そう説明するのか。
怒られたくないから。
↓
※実際にはどうなのか。
１－5）参照。

3）子供の1人は否定し、事実を話したのか。
↓
※何故、事実を話したのか。
ガキ大将が都合の良い事を言っていたから。
↓
※何故、都合の良いことを言っていたのか。
2・2）参照。

↓
※どういう事実か。
1・5）参照。

4）ガキ大将達は大人に詰め寄られ、黙る。
↓
※何故、詰め寄ったのか。
嘘を言っていたため。
↓

※何故、黙るのか。
何も返せないから。

5）刑事は子供の話に不思議に想う。
↓
※何故、不思議に思うのか。
妙にオカルトじみているから。
↓
※何故、そう思うのか。
内容が不可解で、中に入れないというのも理解できない。

6）氏子が刑事に話をする。
↓
※何の話か。
森に関する伝承。
↓
※どういう話か。
邪悪な力を持った娘が村人の恨みから化物を放った為、村人と外から来た新たな神主が総出で森にて倒した。
その化物の死臭が森を枯らしていくため、急遽村人は森を封じて今に至る。

↓
※何故、話したのか。
理解できない刑事に説明した。

7）宮司が来て、改めて説明する。
↓
※何を説明したのか。
所以はともかく森は禁域で、誰も立ち入ることが出来ない。
故に中がどうなっているのかさっぱり分からない。

↓
※何故、入れないのか。
弱まっているとはいえ、霊木で結界を張っている以上霊力が符合しない人間は立ち入れない。
↓
※どうすれば入れるのか。
霊力を符号させる、霊木を完全に除去する、結界以上の力で相殺するしかない。
しかし、どれも危険が有り、穴を開ければ負の力が漏れてしまう。
↓
※負の力が漏れればどうなるのか。
大地は枯れ、二度と戻らない。

↓
※では何故、子供が入れたのか。
結界を破る何かがあったか、弱まっている時だった。
子供の証言が事実ならば、その後何かに飲まれたようだ。

8）刑事は入れない事に疑念を持ち、中に入ろうと霊木を突っ切る。
↓
※何故、中に入ろうとするのか。

そんなオカルト話は信用できない。

9）霊木を横切ろうとした瞬間に体が光り、体内から燃えるような感覚を覚えて体中が痛みに襲われる。
↓
※何故、痛むのか。
結界の作用により、符合しない霊力が反応して排除を求めている。
↓
※何故、排除を求めるのか。
それ程までに結界が強力で、その先にあるものがいかに恐れられているかが分かる。
↓
※何故、結界を張る必要があるのか。
負の力にまみれていて、そこから僅かにもれれば大地を根こそぎに枯らしていく。
1・3）参照。

10）刑事は耐えるも、悶えて倒れる。
↓
※何故、耐えるのか。
子供をなんとして取り戻そうとする意思があった。
↓
※何故、取り戻したいのか。
自分の息子であり、妻がショックで倒れたが故に尚更取り戻したかった。

11）警察は刑事に肩を貸し、やむを得ないとパトカーに向かう。
↓
※何故、肩を貸したのか。
衰弱していて、立ち上がる気力もない。
↓
※何故、気力もないのか。
余りの痛みに耐えられなくなっていて、全身が焼けついた感覚が残っている。

↓
※何故、やむを得ないのか。
入れない以上、何がどうなっているのか分からない。
どっと疲れが出たので、署に向かって書類整理をする事にする。
↓
※何故、どっと疲れが出たのか。
精力が吸われた感覚がして疲れた気がした。

12）子供達は刑事の状態に引く。
↓
※何故、引いたのか。
刑事が体験した事を子供にさせようとした事。
子供が中に入れた事。
大人の警告したことが正しかったこと。
↓
※大人の警告とは何か。
1・3）参照。

13）宮司は子供達に帰る様に言う。
↓

※何故、帰るように言うのか。
特に用がなく、学校の休み時間に来ているため。
↓
※何故、休み時間に来ているのか。
親に話した子供を呼び出し、その子供から関連する子供を呼び出した。

14）宮司は時間稼ぎにすらならなかったと嘆く。
↓
※何故、時間稼ぎにすらならなかったのか。
対処しても、子供が立ち入る程に結界が弱まっている。
↓
※どう対処したのか。
妻の魂を森に送り、森の結界を固定化させた。

↓
※何故、弱まっているのか。
固定化させるための力が弱いから。
↓
※何故、弱いのか。
子供に力が分散した。

15）牧師が来て、娘が戻ってくる頃だという。
↓
※何故、牧師がいるのか。
手伝いと、森から霊的な力が漏れた時のフォローの為に来ていた。
↓
※何故、フォローの必要があるのか。
霊力のある人間は、牧師くらいしかいないので手伝いとして宮司が頼んだ。

↓
※何故、知っているのか。
手紙が来て、今日の午後に来ると知っている。
↓
※何故、手紙を出したのか。
泊まる所がないと困るから家の一室を空けてほしい。
↓
※高校はどうなっているのか。
家の事情という名目で休みをもらった。

16）調査を優先させると言って、作業を継続する。
↓
※何故、作業を継続するのか。
一刻を争う事態であり、娘の帰還は祭りの進行とは何も関係ない。
↓
※何故、関係ないのか。
娘がいなくても祭りが進行するようにしているから。
唐突に戻って来ると手紙を受け取っただけに過ぎない。

17）修道女は娘を迎える為に神社前に向かう。
↓

※何故、神社前に向かうのか。
娘を迎える為。
↓
※何故、一緒にいるのか。
牧師と共に社会貢献として神社で手伝いをする。

3　10分後、神社前。

1）タクシーで娘が来る。
↓
※何故、娘が来るのか。
※何故、神社に向かうのか。
母親の死後以降行われなかった、神楽祭りが行われると聞き、真偽の確認のために向かった。
↓
※何故、確認するのか。
母の死の真相も何もなく、けりがついていない状態で自分に話もしないで勝手に再開していると思った。
↓
※何故、けりがついていないのか。
死亡は事故にすぎないなら、何故神楽祭りをすぐ再開せずに15年中止したのか。

地元の人間や氏子はどう思っているのか。
何故、自分に再開の相談がこないまま、神楽祭りを再開したのか。
↓
※どうやって知ったのか。
再開の知らせを手紙で受け取った。
↓
※誰が出したのか。
氏子。
↓
※何故、宮司が出さなかったのか。
娘は物事の外に行った人間であるため、かかわる必要はもうないだろうと判断した。

対して、氏子は身内だからという理由で手紙を出した。

2）手伝いに来ていた修道女が迎えに来る。
↓
※何故、修道女がいるのか。
地元に貢献する事が使命だと判断しているから。
↓
※宗教観の違いはどうなのか。
嫌だからといってこもっている訳に行かない。
友人として。手伝う義理がある。
↓
※何故、友人なのか。
宗教関連の、娘のいる同じ立場の人間として友人関係となった。
この時間に戻ることを駅前の公衆電話を経由して知った。

3）修道女は再会を喜ぶ。

↓
※何故、手伝っているのか。
地元のイベントは手伝うよう、父親から言われている。
↓
※何故、言われているのか。
周囲に常に敬意を示し、奉仕するよう言われている。
それは祭りであっても例外ではない。
3・2）参照。

↓
※何故、再会を喜ぶのか。
高校に行って以来会っていないから。

↓
※何故、戻る事を知っていたのか。
娘から戻る旨の手紙を受け取り、父親を経由して知った。
↓
※何故、手紙を出したのか。
部屋の確保と、学校の寮に戻されない為、予め手紙を出しておいた。

4）娘は宮司が何処にいるのか尋ねる。
↓
※何故、尋ねるのか。
宮司に訪ねたいことがあるから。
↓
※何を訪ねたいのか。
15年前に母親が巫女舞の途中で死亡して以降、中止した方針をあっさり変えた事。

5）修道女から、牧師とともに森の前にいると答える。
↓
※何故、知っているのか。
つい先ほどまで一緒にいた。
↓
※何故、一緒にいたのか。
子供が森に入った事件で一緒にいた。

6）娘は森の前に向かう。
↓
※何故、森の前に向かうのか。
何故、祭りを再会するのか尋ねるため。

4　森の前。

1）娘が来て、宮司に祭りの目的を迫る。
↓
※何故、迫るのか。
今まで中止していたにも関わらず、再会する理由について求めた。

↓
※何故、今まで中止していたのか。

妻が人柱になったのを機に、もう不要ではないかと判断し様子を見るために中止にした。
↓
※何故、様子を見る必要があるのか。
人柱をもって、森から漏れる負の力は封じられたと思われた。
↓
※負の力は何故消滅しないのか。
森は地脈の飛び地した先であり、刺激が絶えない為負の力は溶け込まずに存在し続けている。

2）宮司は地脈の弱体化で年々収穫が悪くなり、巫女舞を再開させる機運が高まった為と答える。
↓
※何故、地脈が弱体化したのか。
様子を見た結果、舞により活性化していた地脈が弱まってきていた。
これは桜による結界の力が弱まっていることを意味していて、結果として負の力が漏れ出し枯れていく危険がある。
その為に神楽祭りを再開し、舞によって再び血を活性化させる必要があった。

↓
※気運とは？
霊力を持たない一般の人間は、収穫という結果から判断している。
収穫を伸ばす方法が神楽祭りにあるとすれば、再会しない理由はないと氏子達は決めている。

3）娘は、あまりいい印象を持たず反論する。
↓
※何故、いい印象がないのか。
自分に何も話さず、神楽祭りを再開した。
母が立っていた場所に勝手に他人を立たせるのは個人的に納得できない。
↓
※何故、話さなかったのか。
4・1）参照。
魂を開放したとなれば、更にこじれる。

4）牧師は、親の苦労について宮司に話そうとするが宮司に止められる。
↓
※何故、話すのか。
冷静でいた理由や彼女を直接呼ばなかった理由。
↓
※何故か。
4－3）参照。

↓
※何故、宮司に止められたのか。
感情的になっている人間に話しても通じず、彼女が求めている答えと異なる。
↓
※何故、それを知っているのか。
15年前に妻が亡くなった時、騒ぎ立てた警察を説得するのに苦労した。
↓
※どう説得したのか。
心臓発作と説明し、牧師も説明して情報統制を促した。

↓
※娘が望んでいる答えとは。
母親に詫び、謝り全てを精算すること。

5）宮司は、巫女舞に姪を指名したと言う。
↓
※何故、姪を指定したのか。
神楽祭りの巫女舞を習得している身内のうち、彼女が妥当だったから。
↓
※何故、彼女が妥当なのか。
年齢、技量的に彼女が適任だと判断した。

6）娘は彼女のいる場所を尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。
姪に話を聞くため。
↓
※どういう話か。
神楽祭りの状況について。
↓
※どういう状況か。
15年の間、何があったのか。

7）宮司は答える。
↓
※何故、答えたのか。
別に否定する理由はない。
用があれば聞けばいい。
どちらにせよ、社務所に行くつもりだったのだろうから。
↓
※何故、行くつもりなのか。
荷物を置く必要がある。
部屋は出ていったきりそのままになっている。
控室として使おうと思ったが、戻るというので空けておいた。

↓
※姪は何処にいるのか。
社務所で練習している。
↓
※何故、社務所にいるのか。
神楽祭りに向けて練習している。

8）娘は社務所に向かい、修道女もついていく。
↓
※何故、社務所に向かうのか。
↓
※4・1）参照。
その答えを知っているかもしれないから。
↓
※何故、修道女もついていくのか。

一緒に話がしたいから。
↓
※何故、話がしたいのか。
積もる話がしたい。

9）宮司と牧師は調査の続きをする。
↓
※何故、調査をするのか。
結界の調査が完了しておらず、まだ詳細を調べたいから。

5　20分後、秩父警察署。

1）刑事は部屋に入ってデスクに向かう。
↓
※何故、デスクに向かうのか。
調査した内容を整理する為。
↓
※何故、整理するのか。
聞き込みの資料を整理する。

2）上司が来て、結果を問う。
↓
※何故、上司が来るのか。
報告もなしに戻り、その上勝手に作業を始めた為。

3）刑事は適当に答える。

↓
※どういう結果か。
森に立ち入りが出来ない状態で、捜索が出来ない状態にある。
↓
※何故、立ち入りできないのか。
２－7）参照。

4）15年前に死亡事故があった事を話す。

↓
※15年前の事故とは。
宮司の妻が巫女舞のさなかに死亡した。
↓
※何故、死亡したのか。
表向きには運動の心臓麻痺。
↓
※実際にはどうなのか。
森に魂を開放し、負の力を防ぐために固定した。

5）刑事は15年前の事件について尋ねる。
↓
※何故、知らないのか。
赴任してきたばかりで、よくわからない。
↓

※いつ赴任してきたのか。
1月前。

6）15年前の事件について話す。
↓
※どういう話か。
4－2）参照。
当時はGHQから警察への管理移譲でごたついていて、ろくに調査が行われなかった。
神楽祭りは元々、大地に捧げる儀式だったらしい。

7）刑事は引き下がる。
↓
※何故、引き下がるのか。
15年前の資料を探すことにした。
↓
※何故、探すのか。
15年前の出来事と神楽祭り、森について関連があるか調べるため。
↓
※何故、関連があるのか疑うのか。
5－4）参照。

8）上司は昼をどうするのか尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。
食堂は混んでいるから。

9）刑事は何も返さずに出ていく。
↓
※何故、返さないのか。
食堂ではなく、資料室に向かう為。
↓
※何故、資料室に向かうのか。
5－6）参照。

6　資料室。

1）刑事は昭和26年のファイルから、事件を見る。
↓
※何故、昭和26年なのか。
神楽祭りの事件があったのが昭和26年だから。

↓
※どういう事件か。
神楽祭りのさなか、巫女舞の巫女が死亡した事故。
↓
※結果はどうだったのか。
GHQ絡みの事件であり、あいまいで新聞に書いてあるようなことしか書いていない。
↓
※何故、その程度しか書いていないのか。

５－５）参照。

2）ファイルに、古い文字で牧師の名前と連絡先のメモが入っている。
↓
※何故、入っているのか。
捜査に協力した人間のメモが入っている。
↓
※何故、牧師が協力したのか。
牧師はGHQの来日と共に布教と日本の調査のために来た。
その為、事件について橋渡しをしていた。

3）刑事は資料を手に取る。
↓
※何故、資料を手に取るのか。
連絡を取る為。
↓
※誰に連絡を取るのか。
牧師。
↓
※どうやって連絡を取るのか。
５－２）参照。

4）ファイルを碌に片づけず、適当に入れて出ていく。
↓
※何故、片づけないのか。
急いでいるから。

7　秩父警察署デスク。

1）刑事はデスクに戻る。
↓
※何故、戻ったのか。
資料を元に連絡を取る為。
↓
※何処から資料を入手したのか。
５－２）参照。

2）デスクに戻り、電話帳で名前を探す。
↓
※何故、電話帳を見るのか。
電話番号が書いていないから。
↓
※直接行けばいいのではないのか。
直接出向くより、電話したほうが楽だしアポイントもとれる。

3）電話帳から名前を見つけ、連絡を取る。
↓
※どういう名前か。
牧師の名前。
↓
※どうやって連絡を取ったのか。

電話。

3）主人がいないと答え、社務所に引き継ぐよう言われる。
↓
※何故、いないのか。
神社にいる。
２－15）参照。

↓
※何故、社務所に引き継ぐのか。
社務所に連絡を通せば、出てくれるから。

4）電話を切り、社務所に電話をかける。
↓
※何故、電話を切ったのか。
７－3）参照。

↓
※何故、社務所に電話を掛けたのか。
７－3）参照。

↓
※何故、社務所の連絡先を知っているのか。
捜査しているときに連絡を取っている。
↓
※いつ捜査したのか。
２－1）参照。

8　森。

1）宮司と禰宜が神楽殿で打ち合わせをしている。
↓
※何故、打ち合わせをしているのか。
２－15）参照。

2）禰宜から牧師に電話が入っていると知らせが入る。
↓
※何故、電話が入るのか。
７－4）参照。

3）牧師は社務所に向かう。
↓
※何故、社務所に向かうのか。
社務所に電話があるから。

9　社務所内事務室。

1）牧師が来て、電話を受け取る。
↓
※誰から来たのか。
刑事。

↓
※何の用か。
6－2）の内容について。
↓
※何故、聞くのか。
森について、何か知っているのではないかと思った。
↓
※何故、知っているのか。
15年前の事件について、連絡先があったから。
↓
※15年前と、どういう関係があるのか。
4－1）参照。
関係あるかどうかわからないが、手がかりがそこしかない。

2）内容について、教会に来るように言う。
↓
※何故、教会に来るよう言うのか。
教会に資料があるのか。
↓
※何故、教会に資料があるのか。
GHQに従軍していた際の調査資料一式がある。
GHQから警察へと移行している最中にあった為に資料の補完元が混乱し、自分の元に置かれたままになっている。
↓
※何故、置きっぱなしなのか。
15年前の事故は完全な解決を見ていないから。
↓
※完全な解決とは。
森の結界が解け、森にあると言う呪われた力が消滅する事。

↓
※何故、協力するのか。
15年前の資料は元々警察との合同で纏めるはずだった。
纏まっていない物の処理と言う意味では、都合がいい。

3）妻の所に電話を回して用件を伝える。
↓
※何故、妻の所に回したのか。
勘違いされないようにするため。

↓
※用件とは何か。
資料の管理について、刑事が来るので怪しい事ではない。
客なので迎えて欲しい。
倉庫に15念前の調査資料があるので、一式取ってきて欲しい。

4）妻は了承する。
↓
※何故、了承したのか。
夫の客ならば問題ない。

当時の資料をきちんと整理している性分なので、すぐに出せる。
↓
※何故、すぐに出せるのか。
資料室に全てきちんと保管している。

5）電話を切り、禰宜に警察と会うために出ると伝えてタクシーを手配する。
↓
※何故、禰宜に伝えたのか。
宮司がいないから。
↓
※何を伝えたのか。
用事があるので教会に行く。
↓
※どんな用事か。
９－３）参照。

↓
※何故、タクシーを手配したのか。
教会に行くのにタクシーが必要だから。
↓
※どうやって呼んだのか。
電話を掛けた。

6）修道女に家に戻ると禰宜に託を頼む。
↓
※何故、託を頼んだのか。
いつの間にか父親がいないと混乱するだろうから。

7）禰宜は了承し、修道女が何処にいるか尋ねる。
↓
※何故、何処にいるか尋ねたのか。
託を頼まれているから。
９－６）参照。

8）娘と一緒に姪に会う為社務所に行ったと返ってくる。
↓
※誰が返したのか。
牧師。
４－８）参照。

9）禰宜は稽古場に向かう。
↓
※何故、稽古場に向かうのか。
姪が稽古場にいるから。
↓
※何故、稽古場にいるのか。
姪が神楽の練習をしているから。
↓
※何故、姪なのか。
４－５）参照。

10　稽古場。

1）娘が叔母を押し切り姪へ指導している。
↓
※何故、指導しているのか。
姪から話を聞くため。
↓
※どういう話か。
神楽祭りと巫女舞が再開された理由。

↓
※何故、叔母が指導していたのか。　↓
一族以外に、直で教えられる人間はいない。
↓
※何故、教えられないのか。
一族の持つ霊力と、舞によるトランスにより大地を活性化させる。
一族以外に悪用できないよう、門外不出となっている。

2）指導の際、体調が悪くなったら舞をやめるように言う。
↓
※何故、やめるように言うのか。
15年前の死が、激しい運動によるもので心臓まひで亡くなったのではないかと考えているから。
↓
※何故、そう考えるのか。
突然の死は、そうとしか思えなかったから。

3）修道女は指導しているのを眺めている。
↓
※何故、指導しているのを眺めているのか。
何をどうすればいいのか分からないから。
↓
※何故、分からないのか。
舞について何も知らないから。

4）二人を見て、仲のよさに感心する。
↓
※何故、仲が良いのか。
同じ血縁関係で、昔遊んだ仲であるため。

5）娘は姪に神楽祭りの再開について尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。
何故、再開したのかわからないから。
↓
※何故、知らないのか。
再開するという知らせを聞いただけで、理由はわからない。
↓
※何故、教えていないのか。
４－2）参照。

6）姪は力が弱まったからと答える。
↓
※何故、そう答えるのか。
それしか答えがない。
↓
※何故、答えがないのか。
それしか教えられていない。
↓
※力とは何か。
大地の力。
↓
※大地の力について知っているのか。
代々一族の間で知られている。
大地の力を活性させて森の邪気を払うと言う理由がある。

7）修道女は飽きて、自分の家に遊びに来ないかと誘う。
↓
※何故、飽きたのか。
舞をじっと見ているだけで飽きが出た。

↓
※自分の家で何をするのか。
積もる話をしたい。
↓
※積もる話とは何か。
娘が出ていってから何があったのか等。

↓
※牧師と何の関係があるのか。
手伝いが終わったようなので、自分もここには用がない。
だから帰って話をしよう。

8）禰宜が来て、修道女に牧師が帰ったと言われる。
↓
※何故、帰ったのか。
９－５）参照。

9）修道女は牧師が帰った理由を聞く。
↓
※何故、尋ねたのか。
帰る時間でもないのに、なぜ帰ったのか気になるから。

10）禰宜は警察に呼ばれたと答える。
↓
※何故、警察に呼ばれたのか。
９－３）参照。

11）娘は捜査に関連する事なのかと尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。

森に関連する礼の事件なのかどうか気になったから。
↓
※事件を何処で知ったのか。
３－５）参照。

12）禰宜は曖昧に答える。
↓
※何故、曖昧に答えるのか。
警察とどういうやり取りをしているのかが分からないから。

13）叔母は修道女の話を聞き、自分が教えるから休むついでに遊びに行くよう割って入る。

↓
※何故、休ませるのか。
来たばかりで突然、働かせるのは酷だから。
↓
※実際にはどうなのか。
突然来て、一方的に教え込むのは迷惑と思っている。

14）修道女は勝手に娘の手を取る。
↓
※何故、勝手に手を取ったのか。
そうでもしないと遊んでくれないから。
１０－７）参照。

11）娘はやむなく了承する。
↓
※何故、了承したのか。
修道女は一度始めると聞かない性格だから。
警察に会えば多少なりとも森に関して何か聞けるかも知れないから。
↓
※何故、聞きたいのか。
神楽祭りを再開した経緯を聞きたい。

12）修道女は娘を引き連れ、タクシーを呼びに事務所に向かう。
↓
※何故、タクシーを呼ぶのか。
タクシーでないと家に行けない。

13）姪は騒がしい二人を見て不思議がる。
↓
※何故、不思議がるのか。
あそこまで騒がしいのは珍しいから。
↓
※何故、珍しいのか。
学校ではガキ大将が騒がしいのを子供っぽく思っていた。
娘程の年齢になっても、騒がしいのは変わらないのかと思っている。

11　教会。

1）パトカーで刑事が来る。

↓
※何故、来るのか。
9・2）参照。

2）妻が出る。
↓
※何故、妻が出るのか。
夫の牧師は戻ってきているところだから。
↓
※何故、戻っているのか。
9・5）参照。

3）身分を名乗り、牧師はいないのかと尋ねる。
↓
※何故、牧師を尋ねるのか。
牧師に事情を話しているから。
9・2）参照。

4）妻は事情を尋ねる。
↓
※どういう事情か。
警察から資料について尋ねられるという用件。
↓
※何故、知っているのか。
9・3）参照。

5）刑事は驚き、中に入ろうとする。
↓
※何故、驚いたのか。
妻が事情を知っていたから。
↓
※何故、事情を知っていたのか。
9・3）参照。

↓
※何故、中に入ろうとするのか。
妻が中で待っているように行ったため。
↓
※何故、待っているように言ったのか。
牧師が来るまで時間があるから。
↓
※何故、時間があるのか。
電話が来てから30分経っているので、そろそろ来るはずだと思っている。
なので、少し待っていればすぐ来ると判断した。

12　客室。

1）刑事は歓迎に戸惑いつつ、自分達の出自について尋ねる。
↓
※どういう歓迎か。

皿一杯のクッキーとコーヒー、ケーキを運んでくる。
↓
※対して、刑事はどうしたのか。
すぐに出るのでと断ろうとする。
↓
※対して、妻はどうしたのか。
気にしないで欲しい。
↓
※何故、尋ねたのか。
何故、自分達は日本に来たのか。
何故、事件に関わっているのか。
↓
※何故、知ろうとしたのか。
事件に関わっているのだから、出自と関係があるのかもしれない。
少しでも事件に触れているのではないかと思った。

2）妻は事情を話す。
↓
※どういう事情か。
かねてから日本に興味が有り、布教と言う名目で文化調査を兼ねて戦後GHQと共に渡り文化を調査しつつ活動をしてきた。
娘が日本で生まれた事もあり、GHQ撤退後も居座っている。

3）牧師が入ってくる。
↓
※何故、入ってきたのか。
9・5）参照。

4）牧師は、この後誰が来るのかと尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。
クッキーの量が多く、1人で食べきる量ではない。

5）妻は修道女が、宮司の娘を連れて来ると話す。
↓
※何故、来るのか。
10・15）参照。

6）牧師は警察を見て、座ると妻に資料を取ってくるように言う。
↓
※何故、妻に言ったのか。
妻に資料を見せるように言ったから。
↓
※何処で言ったのか。
9・3）参照。

↓
※どういう事情か。
9・2）参照。
神社は森を守るために建立された物で、元々は別の神社が区域を統括していた。

何故神社が移ったのかは分からないとの事。
↓
※何故、分からないのか。
前の神社に関する記録がない。
消滅したからと思われる。
実際に、事件について関連性がないので調べる意味がない。
只、消滅する前後に姿ケ池造成が重なっているので、その影響があるのかもしれない。
↓
※何故、重なったのを知っているのか。
村の記録にある池の完成と、神社の縁起が近い年代にある為。

7）妻は部屋を出ていく。
↓
※何故、部屋を出ていくのか。
資料を取りにいく為。
↓
※何処においてあるのか。
資料室で、あるだけ取ってきて部屋に運んでおいた。

13　姿ケ池。

1）脇の道にタクシーが止まる。
↓
※何故、寄るのか。
子供の頃、よく行っていたので懐かしんできた。
↓
※何故、来ていたのか。
先祖に関する話をするため。
↓
※どういう話か。
先祖は旅の人間を人柱にしたことで、姿の池を完成させた。
それ以降、災いがあり止めるために別の神社の人間を人柱にした。

2）娘が降りて、池のほとりに寄る。
↓
※何故、降りたのか。
13－1）参照。

3）修道女も降りて、周りを見回す。
↓
※何故、降りたのか。
13－1）参照。
懐かしさから降りた。
↓
※何故、懐かしいのか。
幼い頃、修道女とともに家族ぐるみで遊んでいたから。

4）修道女は出ていった理由を尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。

高校ならば近くにあるのに、東京に近い所に行ったから。

5）娘は嫌じゃないけど、事情があると答える。
↓
※どういう事情か。
父との確執があった。
↓
※何故、確執があったのか。
母の死に冷静であった事、その後特に何も言わず一方的に作法や術法等の物事を押し付けていたこと。
↓
※何故、冷静だったのか。
妻が人柱になるという事実を受け入れたから。

6）娘は手をかざし、姿ケ池の人柱について話す。
↓
※どういう話か。
大地の力の上にあり、無理に断ち切って作った為氾濫が相次いだ。
その為、旅の人間を人柱にして造成した。
その念は今や消えているので、かざして霊力を引き出そうにも何も反応がない。
↓
※何故、反応がないのか。
身投げを阻止するために人柱を持って固定した。
以後、魂は固定され年の経過とともに薄れて溶け込んでいった。

↓
※何故、知っているのか。
地元の人間ならば知っている話。
但し、その後の話は異なっている。
↓
※どう異なっているのか。
村人側は自分達を英雄的に伝えているのに対し、神社の側は自分達を加害者のように捉えている。
↓
※何故、そうなっているのか。
時間の経過の中で、村人は自分達を正当化している伝承に変わっていった。

7）タクシーの運転手はいつまでいるのかと尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。
タクシーを降りて寄り道をしているから。
↓
※何故、寄り道をしているのか。
13－1）参照。

8）娘は謝り、タクシーに戻る。
↓
※何故、謝るのか。
意外に長い時間とどまってしまった。
↓

※どれくらいとどまっていたのか。
5、6分。
↓
※何故、わかるのか。
タクシーの運転所が時計を見て確認した。

↓
※何故、タクシーに戻ったのか。
タクシーの運転手に言われて、戻った。
↓
※何故、言われたのか。
13・7）参照。

9）タクシーが去っていく。
↓
※何処へ向かうのか。
教会。
↓
※何故、向かうのか。
10・12）参照。

14　客室。

1）刑事は資料を眺める。
↓
※どういう資料か。
15年前のGHQとともに調べた資料。
↓
※何故、調べた資料があるのか。
当時は警察機関がGHQだったため。
そこに従軍していて資料をまとめていたが、ある程度まとまった段階でGHQから警察に管轄が変わった。
その際のごたつきで、大まかな資料だけが警察に引き継がれ、細かい資料はそのままになっている。

2）刑事は森に入る方法について尋ねる。
↓
※何故、尋ねるのか。
森に自分の子供が入り込み、そのままになっている。
何としても助けたい。

3）牧師はわからないと答える。
↓
※何故、分からないのか。
強い結界が張られていて、中に入り込もうにも出来ない。

↓
※それにもかかわらず、何故子供が入れたのか。
結界は随時変化しているパズル（割れたクッキー）のようなもので、かち合わない物は全て弾かれるようになっている。

子供の霊力は柔らかく、容易く欠片と照合してしまうケースがある。
結界の霊力と照合してしまい、中に入れた物と思われる。

↓
※では、その照合が出来れば可能なのか。
理論上は可能だが、どの欠片があっているか、物の全体が不明なので照合のしようがない。
中に入った子供も、何故かち合ったのかわからない（戻らない限り調べようがない）以上解析も出来ないので、一切がわからない。
接着剤で無理矢理照合させるか、結界そのものを消去するかだが、前者は上記の理由から無理。
結界の消去も恐らく出来ない。
↓
※何故、出来ないのか。
結界は、都合の悪い何かを閉じ込めるか、そこに立ち入らせないためにある。
森の結界は両方を兼ねているようで、外に漏れると大変な事になる為に封じている。
酷い話だが、子供の命より重い何かがそこにはあるのだから、解除は出来ないのだろう。
↓
※重い何かとは。
記録によれば、漏れれは大地を枯らすとされているが詳細はわからない。
↓
※何故、分からないのか。
宮司達が話そうとしないし、記録も公開しない。

4）チャイムが鳴る。
↓
※何故、チャイムが鳴るのか。
修道女と娘が来て、チャイムを鳴らした。
↓
※何故、来たのか。
遊びに来た。

5）妻は娘と修道女が来たと言って出迎えに行く。
↓
※何故、妻がいるのか。
読み終わった資料や、これから読む資料を整理していた。

6）刑事は一緒に行くと言って、玄関に向かっていく。
↓
※何故、向かうのか。
話を聞く為。
↓
※何の話を聞くのか。
森について、宮司の娘なら知っているかもしれないから。

7）牧師は、刑事の態度を諌める為に席を立つ。
↓
※何故、席を立ったのか。
刑事を諌める為。
↓

※何故、刑事を諌めたのか。
娘は客であり、客に質問をぶつけるのは失礼だから。

15　玄関。

1）修道女と娘が入ってくる。
↓
※何故、来るのか。
14・4）参照。

2）刑事が来て、身分を名乗り森について話がしたいと言う。
↓
※何故、森について話を聞くのか。
森について知れば、中には入って子供を助けられるかもしれない。

3）娘は戸惑い、自分との関係を尋ねる。
↓
※何故、戸惑うのか。
突然の質問に反発しようにも、刑事なので反発できず返事に困窮してしまう。

↓
※何故、関係を尋ねるのか。
森について口外出来ない事情があり、更に自分が話した所で事件が解決するとは思えないから。
↓
※何故、口外出来ないのか。
代々に渡り一族以外に口外出来ない事情がある。
↓
※どんな事情か。
瘴気の正体が、自分の先祖の業である事。
その罪を背負っていて、抑える事が代々の勤めであること。
桜を植えたのは霊木で、力を抑えるため。

↓
※何故、事件が解決すると思わないのか。
話した所で分からないし、解決方法が見えない。
↓
※何故、解決方法が見えないのか。
森に出たり入ったりする手段がないから。

4）牧師は当時の調査資料では不満なのかと尋ねる。
↓
※当時とはいつか。
昭和26年の事故。
↓
※何故、見せたのか。
刑事とそういう約束をしていたから。

5）娘はその話を知り、共に資料を見たいという。
↓
※何故、資料を見たいというのか。

母の死について知りたいから。
↓
※何故、知りたいのか。
周りは何故冷静でいられるのか。
父が何かしていたのではないのかと考えている。

6）牧師は同意し、共に部屋に案内する。
↓
※何故、同意するのか。
資料は見てはいけないものではない。
↓
※何故、見られるのか。
重要な捜査資料なら、とっくに警察に渡っている。
混乱期でほったらかしになっている上、その後の調査要請もないので別に構わないのだろう。

7）修道女は乗り気ではないが、仕方なく付き合うという。
↓
※何故、乗り気ではないのか。
話がしたいのに、どんどん離れていく。
↓
※何故、離れていくのか。
彼女が資料を求めたから。
15－5）参照。

16　部屋。

1）娘は資料を見る。
↓
※どういう資料か。
彼女が亡くなった理由に至る内容と考察。
写真と報告書。
↓
※どういう内容か。
森にある負の力が年々強まっていて、霊木も弱まっている。
明治時代に神楽祭りが中断されて以降、大地の力が弱まっているのが原因とされる。
このままでは負の力が漏れ、枯れてしまう。
活性化の為に神楽祭りの巫女舞を再開する必要がある。
しかし、その程度では60年にわたり廃止された事で失った霊気を取り戻す事は出来ない。
故に、最悪人柱を持って霊気を森に還元し固定する必要があった。
↓
※いつ巫女舞が廃止されたのか。
明治6年「梓巫市子並憑祈祷孤下ケ等ノ所業禁止ノ件」にて廃止。
しかしながら、負の力に影響を与えかねない為一族によりひそかに伝えられた。
GHQは宗教政策の制限により再会を許可しなかったが、地元の人間の士気高揚を名目に1度だけと言う名目で大幅に規模を縮小した上で神楽祭りの許可を得る。

宮司の妻は戦中とはいえ、病の記録がなく、心臓まひで死亡する予兆はない。
急激な運動と言っても、練習をしていた事に加えて、健康状態の記録から不全状態になるとは考えにくい。
周囲の人間が何かしらの目的で殺したとしても、その理由がない上メリットもない。

司法解剖の結果、毒物も外傷も検出されていない事、殺害のメリットが一切ない為何かしらの手段で「殺した」事はあり得ず、大勢の人が見ている前で殺すなど物理的に不可能である。

仮に人柱として彼女が犠牲になったとすれば、その状況は合致する。

しかしながら、その工程は過去の文献と全く異なる物で、伝承に巫女舞の最中に急死したケースはない。

警察やGHQも事故と断定している以上、犯人を推測する事も記述する事も出来ない。

2）牧師は感想を求める。

↓

※何故、感想を求めたのか。

資料をざっと読んだ所でどうだったのかと思ったから。

↓

※どれくらいの資料を読んだのか。

事件のあらましと内容の報告書。

3）刑事は感想を言い、森がいつからあり何故畏れているのか尋ねる。

↓

※どういう感想か。

祭り再会の理由と、事故について森と何らかの関連があるのは分かった。

↓

※何故、分かったのか。

上記参照。

神楽祭りの再開の理由と事故と森に何かしらの関連があるのではと感じた。

↓

※何故、感じたのか。

16－1）参照。

森の活性化の為に神楽祭りを再開、その事故が突然死としては不明であり、尚且つ周囲に殺害の理由も状態もない。

事態や神楽祭りの根本に森が関連しているのは確かで、結界について書かれているが、それと彼女の死がどう関係しているのか分からず、結界の突破方法も記述がない。

↓

※何故、尋ねたのか。

資料に森について負の力に塗れているとしか書いていないから。

↓

※負の力とは何か。

村人の言う、大地を枯らす力。

資料にはそれしか書かれていない。

4）牧師はいつの間にか瘴気に塗れていると言い、娘に振る。

↓

※何故、いつの間にかなのか。

村人は話したがらず、村の史書にも詳細がない。

↓

※何故、話したがらないのか。

村人の失態が原因で負の力が発生したから。

自分に都合の悪い事は書こうとも話そうともしない。

↓

※どういう失態か。

村人が神社の人間を責め、巫女の前で禰宜を暴行した。
結果、慕っていた巫女の力が解放され、負の力を呼び起こしてしまった。

↓
※何故、娘に振ったのか。
神社と森との関係について、娘の方が詳しいのではないかと思ったから。

5）娘はその辺の事情はよく分からないと白を切る。
↓
※何故、白を切るのか。
15－3）参照。

6）刑事は資料の持ち出しについて尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。
オカルトじみた考察ではあるが、ないよりマシだしここから調べる事も出来る。
結界についても経験しているので、あながちウソではないと感じている。
↓
※何処で経験したのか。
2－9）参照。

↓
※何故、持ち出すのか。
自分なりに調べる為。
↓
※何故、調べるのか。
神楽祭りと巫女の死、結界が何か密接に絡んでいる気がする。
これらの謎が解ければ、結界を突破する手段や経由が分かる気がする。
↓
※何故、そんな気がするのか。
分からない部分が分かってくれば、繋がりが見えてくるのではないかと感じた。

7）資料は好きに持っていっていいと言う。
↓
※何故、好きにしていいのか。
本来はGHQと共に調べた物であり、引継ぎ作業での混迷中だった事や、半ばオカルトめいた物だった為に放置された。
多少の考察は警察側に渡っているはずで、自分の調べた物も今となってはどうでもいい話でしかない。
↓
※実際にはどうなのか。
警察側に渡っているのは事件の概要程度しかない。
どうでもいいのは、調査がすでに終わっている為で自分としてはそれ以上調べる意味がない。
↓
※何故、意味がないのか。
調べた事実の纏めであり、そこから過剰に考察を入れてもどうしようもない。
自分の目的は布教と文化理解と探究であり、そこに事件は特に関係がないので調べる意味がないし客観的に見て不審点がないので調べようがない。

8）娘は資料を読み終えると、父親に連絡を取ると言う。
↓

※何故、連絡を取るのか。
母の死の真相について、何かを知っていそうだから。
↓
※何故、知っていそうなのか。
人柱として据えたのであれば、あらかじめ死ぬのを知っていた可能性がある。
ならば誰がその案を提案し、何故受け入れたのか。
それ以外の理由で死んだとすれば、再開に何かしら対策はしているはず。
それらしき対策がないようなので、改めて聞き直す必要がある。
対策が出来ないなら、再開を止めるしかない。

9）牧師は了承する。
↓
※何故、了承するのか。
聞き直して納得できる事実があれば、それ以上何も言わない。
彼女の性格からして、それがなければ全力で止めるし他人の言葉は聞かないだろう。
↓
※彼女の性格を何故知っているのか。
幼い頃から娘と共に面倒を見ていたので、よく知っている。

10）刑事は、事情が聴きたいと言ってついていく。
↓
※何故、ついていくのか。
16－1）の謎が解決するかもしれないから。
↓
※何故、解決するのか。
宮司から話を聞けば、森の経由や状態が分かるかもしれない。

11）修道女はつまらないと嘆く。
↓
※何故、つまらないのか。
一緒に遊んでくれないから。
↓
※何故、遊んでくれないのか。
16－7）参照。

17　居間。

1）宮司に取り次いでもらう。
↓
※何故、取り次いでもらうのか。
16－1）参照。

2）娘は母の死について迫る。
↓
※何故、迫ったのか。
母親の死について、不審な点がある。
↓
※どういう点が不審なのか。
殺した形跡がなく、心臓まひにしても不自然が多い。
父親は何か知っているのではないのか。

↓
※何故、母の死を知ろうとするのか。
父親が冷静でいられた理由が、そこにあるのではないのか。
だとすれば、身内である自分が知らないと言うのはどういう事か。
↓
※何故、そう思ったのか。
16－1）参照。

3）しばらく黙ったのち、話をするという。
↓
※何故、黙ったのか。
話すべきか話さないのか悩んだから。
↓
※何故、話そうしないのか。
話した所で理解できる話ではないし、自分が殺したような物だから。
↓
※何故、理解できないのか。
魂を森に還元すると言う行為と、その理由が理解できない。

↓
※何故、殺したような物なのか。
その案を受け入れ、他の手段を考えずに何もしなかった。

4）刑事が割り込んで受話器を取り、同席を迫る。
↓
※何故、割り込むのか。
母親の死が、森に入る手掛かりに繋がっているのではと考えているから。
5－7）参照。

↓
※何故、同席を迫るのか。
上記参照。

5）宮司もやむを得ないと了承し、氏子達の去った夕方以降に話すと言う。
↓
※何故、やむを得ないのか。
刑事の事情を知っているから。
↓
※どういう事情か。
自分の子供が森に入ってしまった。
何としても助けたいしその為に手がかりを探している。
↓
※何処で会っているのか。
2－7）参照。

↓
※何故、夕方以降に話すのか。
氏子に話をしていない。
単に事故であると言っている。
↓

※何故、話さないのか。
15－3）参照。
事故として処理すれば後処理にややこしい説明が不要になり、楽になる。

↓
※牧師は事情を知っているのか。
本当の事は良く知らないが、土地柄に事情があると言う点は察している。
調査の際、深く話さなかった為に何かあるのだろうと思っている。
↓
※何故、追及しなかったのか。
個人の事情や、妻が亡くなったショックも考慮して深く追求しなかった。
友人と言う事もあり、いつか話すときは話すだろうと思っている。

6）刑事は感謝の言葉を言う。
↓
※何故、感謝の言葉を言うのか。
個人的な事情に自分が口を挟みながら、それを了承したこと。

7）刑事は娘に電話を代わる。
↓
※何故、娘に電話を替わるのか。
自分の要件は終わったから。

8）電話を代わり、了承すると電話を切る。
↓
※何故、電話を切ったのか。
宮司の意見に了承したから。
↓
※何故、了承したのか。
17－5）参照。

9）刑事は娘にこれからどうするのか尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。
これから何処で落ち合うか、打ち合わせる必要があるから。
↓
※どうしてなのか。
同じ場所で会わなければ、効率が悪い。

10）娘は後ろを見て、夕方までここにいると言う。
↓
※何故、後ろを見たのか。
修道女の気配を感じたから。
↓
※何故、修道女がいるのか。
娘の様子とこれからが気になったから。
↓
※何故、気になったのか。
遊んでくれないから。

↓
※何故、夕方までいるのか。
上記参照。
修道女と遊ぶため。
粗方用件は片付いた。

11）刑事は夕方になったら来ると言う。
↓
※何故、来ると言うのか。
タクシーで個別に行くより、一緒に神社に来た方が効率がいいし金もかからない。

12）娘は了承する。
↓
※何故、了承するのか。
そうした方が楽だから。
↓
※何故、楽なのか。
タクシーを呼ぶよりは手間がかからないから。

13）刑事は資料を回収してから去ると言って、部屋に戻る。
↓
※何故、挨拶をしたのか。
手間をかけてくれた牧師に礼を言う為。
↓
※何故、部屋に戻るのか。
資料を回収する為。

14）修道女は喜んで飛び出し、娘を引っ張って部屋まで連れていく。
↓
※何故、喜ぶのか。
やっと用事が全部終わり、一緒に遊べるから。
↓
※用事とは何か。
母の死に関する事。
17－5）参照。

↓
※何故、娘を引っ張るのか。
娘と遊びたいから。

18　部屋。

1）刑事は牧師と妻に礼を言い、資料を纏めて運び出そうとする。
↓
※何故、礼を言うのか。
民間人が当時の資料を保管し、かつ提供してくれたことに礼を言う。
↓
※何故、運び出そうとするのか。
警察署に持ち込んで一気に調べる為。

2）牧師と妻は資料を運び出す手伝いをする。

↓
※何故、手伝うのか。
必要な人間の手伝いをするのが牧師としての務めだから。

19　教会の外。

1）刑事は資料をパトカーに詰め込む。
↓
※何故、パトカーに詰め込んだのか。
16－7）参照。

2）刑事は妻と牧師に感謝し、パトカーに乗り込む。
↓
※何故、感謝したのか。
刑事と妻も一緒になって資料の運び出しを手伝ってくれたから。
↓
※何故、手伝ったのか。
資料が多く、一人では何度も往復する事になるので手伝った。

3）パトカーは教会を出ていく。
↓
※何処に行くのか。
警察署。
↓
※何故、警察署に行くのか。
資料を調べる為。
↓
※何故、この場で調べないのか。
警察署に持って帰って調べた方が警察署にある資料と参照できる。

20　秩父警察署。

1）刑事はデスクに向かう。
↓
※何故、デスクに向かうのか。
資料の整理と調査の為。
↓
※どういう資料か。
16－1）参照。

2）上司が来て、今まで何をしていたのかと問われる。
↓
※何故、上司が来たのか。
今まで席を立っていたから。
↓
※何故、今まで席を立っていたのか。
9－2）参照。

3）調査をしていたと言い、資料を隠す。
↓
※何故、資料を隠すのか。

資料を見た所で理解出来ないし、没収される危険がある。
↓
※何故、理解できないのか。
オカルトじみた内容なので、理解のしようがない。

↓
※何故、没収されるのか。
調査資料として改修した物なので、上司に報告する為に没収される。

4）上司は署長命令として、書類を見せつける。
↓
※どういう書類か。
神楽祭りの見回り。
↓
※何故、見回りをするのか。
祭りの人手が足りず、暇そうにしている刑事を勝手に当てた。
↓
※何故、人手が足りないのか。
急に祭りが決まった為に対処できない。

5）刑事は書類を受け取る。
↓
※何故、受け取ったのか。
命令なので受け取る。

6）上司は資料を見て、何処から持ち込んだのか尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。
古く、しかも大量にあるから。

7）刑事は無視して資料を纏めている。
↓
※何故、邪魔なのか。
資料の精査をしているから。
↓
※何故、資料を精査しているのか。
森に関する事が書き込まれていないか調べる為。
↓
※何故、調べるのか。
森に入って息子を助ける為。

8）上司は怒鳴り散らして去る。
↓
※何故怒鳴り散らすのか。
自分の言う事を聞かないから。
↓
※何故、言う事を聞かないのか。
資料を精査している時に邪魔だから。

↓

※何故、去るのか。
刑事が言う事を無視しているから。
↓
※何故、無視しているのか。
19－7）参照。

21　夕方。外、警察署前。

1）刑事はパトカーに乗り込もうとする。
↓
※何故、乗り込もうとするのか。
17－11）参照。

2）他の刑事に上司がうるさいと言って警告する。
↓
※何故、言われるのか。
上司が刑事を気に食わないとして、止めるように言われている。
↓
※パトカーの鍵は取らなかったのか。
予め使うと話していた。
↓
※何に使うのか。
神社の見回りについて、宮司と打ち合わせがあると話して使うと言っていた。

3）刑事はパトカーに乗り込み、出ていく。
↓
※何故、乗り込んだのか。
17－11）参照。

4）他の刑事は上司にどやされると言って去る。
↓
※何故、どやされるのか。
上司が気に食わないから。
↓
※何故、気に食わないのか。
新任の癖に、自分の言う事を聞かないからその不満をぶつけられる。

22　夕方、教会前。

1）パトカーが来る。
↓
※何故、パトカーが来るのか。
17－11）参照。

2）パトカーから降りて呼び鈴を鳴らす。
↓
※何故、呼び鈴を鳴らすのか。
娘を迎えにきた。
↓
※何故、迎えに来るのか。
17－11）参照。

3）妻が出て、娘を呼ぶ。
↓
※何故、妻が出たのか。
夫は改めて残った資料を発掘していて、娘と修道女は部屋で遊んでいる。
↓
※何故、発掘しているのか。
不明な部分の欠損があるかもしれない。
↓
※何故、そう思うのか。
自分だけではなく、GHQも捜査していた。
GHQ側の資料が存在するかもしれない。

↓
※何故、娘が来るのか。
17－12）参照。
妻に呼び出された。

4）娘は修道女に別れを告げると犯罪者の気分と言い、乗り込む。
↓
※何故、そう思うのか。
パトカーは犯罪者が乗る物と思い込んでいる。

↓
※何故、乗り込むのか。
社務所まで一緒に行く形にしたから。
17－12）参照。

5）パトカーが出ていく。
↓
※何処に行くのか。
社務所。

23　パトカー。

1）刑事は神社と森について尋ねる。
↓
※何故、尋ねるのか。
神社と森と何か関連がないのか、手がかりを求めている。
↓
※何故、手がかりがあると思うのか。
森と神社に関連がありそうな気がするから。
↓
※何故、関連があると思うのか。
森について、氏子と宮司が解説していた。
2･6）参照。

2）娘は姿ケ池の伝承を尋ねる。
↓
※何故、尋ねるのか。

姿ケ池の伝承と森に関係があるから。
↓
※どういう関係か。
大地の力が飛んだ先が森だから。
↓
※何故、知っているのか。
八想家に伝わる伝承。
↓
※何故、伝承があるのか。
先祖が起こした業について伝える必要があるから。
↓
※何故、伝える必要があるのか。
森を代々に渡って守ることで、一帯を守る義務がある。

3）刑事は氏子が話した事を話す。
↓
※何を話したのか。
２－6）参照。

4）娘は、伝承の続きを話す。
↓
※どういう伝承か。
造成後、人柱で固定していた大地の力が溢れて飛び地して消滅した。
その為に負の力が表に出てしまった。
飛び地した先が森で、身投げを止めるために神主は逆に大地の力を姿ケ池に戻そうとした。
結果は失敗し、負の力が森に充満したので霊木と神楽を奉納して抑えている。
身投げの方は神主の妻を人柱に据える事で止めた。
もう姿ケ池に念は残っていない。

↓
※何故、話したのか。
村人と伝承が異なっているから。
村人の間に伝わっている物と違っているので、彼女も驚き自分が知っていることを話した。
↓
※何故、知らないのか。
宮司から聞いた話が全てだし、村人にそんな昔話についていちいち聞かない。

5）刑事は、村人の話と違うという。
↓
※村人の話とは。
２－6）参照。

6）娘は、どちらが正しいのか分からないという。
↓
※何故、分からないのか。
伝承にしか過ぎず、当時の自分は生きていない。
なので、どちらが正しいのかよく分からない。

24　参道。

1）パトカーが止まり、2人は降りる。
↓
※何故、止まるのか。
宮司から話を聞くため。
↓
※何故、話を聞くのか。
17・5）参照。

↓
※何故、参道で止まるのか。
ここから先は車の進入禁止になっている。
↓
※何故、進入禁止になっているのか。
祭りが近い為。

2）刑事は帰っていく氏子に、宮司の居場所を尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。
宮司がいないから。
↓
※何故、いないのか。
宮司は別の仕事をしている。
↓
※何をしているのか。
警察と共に森を見回している。
↓
※何故、見回しているのか。
巫女舞の時に、何があると困るので調べている。
↓
※何かとは何か。
神楽舞の際、負の力が逆に巫女を取り込もうとする状態。
結界が弱まっているので、尚の事だと思っている。

3）氏子は森の前にいると言って帰る。
↓
※何故、森の前にいるというのか。
21ー2）参照。

↓
※何故、氏子は帰るのか。
日が暮れるから。
↓
※夜遅くまでいないのか。
宮司に今日は帰るように言われたから。
↓
※何故、帰るように言われたのか。
17・5）参照。

4）娘と刑事は、神楽殿に向かう。
↓

※何故、向かうのか。
宮司に会うため。
↓
※何故、会いに行くのか。
17・5）参照。

25　森の前。

1）娘と刑事は宮司と会う。
↓
※何故、会ったのか。
23・4）参照。

2）宮司は娘と刑事に母の死の真相を語る。
↓
※何故、今まで話さなかったのか。
話せば混乱する。
↓
※何故、話せば混乱するのか。
只の事故で終わればそれでよく、話さなければならないと言う事はこれがまだ終わっていない事を意味しているから。
↓
※終わっていないとはどういう事か。
森から負の力が漏れていて、妻の魂を森に移す事で内部から固める事にしたから。
↓
※人柱と異なるのか。
神楽殿を通して魂を森に移して負の力と同化させてか会貯める事になった。
人柱は魂をその場に固定する物で異なる概念を持つ。

↓
※何故、そんな事をしたのか。
負の力が漏れていて、間違いなく食い止める事が出来ない。
↓
※何故、食い止められないのか。
神楽祭りが中断していた事や、桜の霊木が弱まっていた為。
↓
※何故、弱まるのか。
花が咲き、霊力を持った花びらを散らす事で大地に霊力を与えると同時に一時的に霊木の力が弱まる。

3）何故そんな事をしたのか、負の力の正体について尋ねる。
↓
※どう話したのか。
自らの業により生まれた負の力を、未来に拡散させないようにする。
それが先祖代々の我が家の務めであり、妻はそれを守り抜いた。
互いに分かり切っていた事だったので、泣きもわめきもしなかった。
↓
※未来とは何なのか。
自分の娘、その次の世代。

↓
※負の力の正体とは何か。
村人の煽りにより我々の先祖が大地の力の還元に失敗し、その結果起きたもの。
大地を枯らす力で、封じてきた。

4)それでも止められなかった理由を、刑事は問う。
↓
※何故、問いかけたのか。
今に至るまで完全に封じられなかった理由。

5)宮司は母親の霊力がなく、完全に止められなかったと話す。
↓
※何故、霊力がないのか。
娘に霊力が移った為。
↓
※何故、霊力が移ったのか。
霊力は母親から直に、子へと伝わっていく。
その際、母親から娘に霊力が移った。

6)本来なら死を持ってしても固める必要はなかったが力を失っていた事、その為の力も薄れ、徐々に結界は崩壊しているという。
↓
※本来はどうなのか。
神楽祭りの舞を持って活性化し、霊力を注いで固めればよかった。
それに見合う力がなかった。
↓
※何故、力がないのか。
23－5)参照。

↓
※何故、崩壊しているのか。
24－2)参照。

7)娘は母の死の一因に自分が関わっていたことを知る。
↓
※何故、自分が関わっていたのか。
霊力が自分に移ったが為に母親に霊力がなくなり、死を持って止めるしかなくなった。

8)娘は森に向かっていく。
↓
※何故、森に向かっていくのか。
全ての原因が森にあるのであれば、その森と向き合わなければならない。
そこに向き合おうとした。
↓
※何故、向き合おうとしたのか。
母親を死に至らしめた森とは何なのか、改めて見たい。

9)刑事は了承し、母の死について尋ねる。
↓
※何故、尋ねるのか。

母の死や娘について、どう思っているのか尋ねる。
↓
※何故、尋ねるのか。
家族関係について、どう思っているか聞きたいから。
↓
※何故、聞くのか。
息子も同じ理由で反発し、森に入っていたのではないかと思ったから。

10）すでに分かっていた事であり、残った娘や地元の人間を守る為に平然を装っていたと答える。
↓
※何故、分かっていたのか。
24－5）参照。

11）娘は森に近づく。
↓
※何故、森に近づいたのか。
母を死に至らしめ、今に至っても悪縁のある森に何があるのか、自分と何の関係があるのかと思った。

12）刑事は止める。
↓
※何故、止めたのか。
自分が痛い思いをして弾かれたから、娘も同じ目にあうと思っている。
↓
※いつ、痛い思いをしたのか。
2・9）参照。

13）弾かれる。
↓
※何故、弾かれるのか。
霊木により結界が張られているから。
↓
※何故、張られているのか。
2・7）参照。

↓
※どうやって弾かれたのか。
2・9）参照。

14）娘は霊木を殴る。
↓
※何故、霊木を殴るのか。
結界や森のために母が死んでいったのかと思い、怒りと悲しみが湧いてきた。
根本的な解決を求めようとしたのだが霊木の為に入れず、入っても負の力により全てが枯れてしまう。

15）娘はいつまで辛い思いをするのかと嘆き、それを断ち切る為に中に入ると訴える。
↓
※いつまで辛い思いをするのか。
森に負の力が存在する限り。

↓
※何故、断ち切ろうとするのか。

母の死が無意味になろうとしている。
そんな状態で、何もしないわけに行かないしもう誰も悲しませない。
↓
※どうやって断ち切るのか。
負の力の元を断ち切る。
↓
※どうやって断ち切るのか。
負の力の元に向かい、自分の霊力で潰す。

16）宮司は、娘まで失うのではと反発する。
↓
※何故、反発するのか。
娘のために死を選んだ妻の思いが無になってしまう。
何のために妻が死を選んだのかわからなくなる。

17）刑事は、宮司の意見に同意する。
↓
※何故、同意するのか。
息子が中に入ったきり戻ってこないから。
↓
※どうやって入ったのか。
1・5）参照。

18）娘は時間稼ぎに過ぎず、また同じ事を繰り返すと言って反発する。
↓
※何故、反発するのか。
25・14）参照。

19）宮司は方法について尋ねる。
↓
※何故、尋ねるのか。
どうやって森に向かうのか確かめるため。

20）娘は霊力で突破すると答え、結界を相殺しようとする。
↓
※何故、結界を相殺するのか。
その気に為れば入れるというアピールの為。
↓
※どうやって相殺するのか。
霊力を手に集中し、結界にぶつけて相殺を試みた。
↓
※結果、どうなったのか。
結界が解けようとするが頑丈でなかなか開けない。

21）宮司は止めさせる。

↓
※何故、止めさせたのか。
結界を特には膨大な力が必要となる。
仮に結界が解ければ大変なことになる。

↓
※大変な事とは。
負の力が漏れて飲まれる。

↓
※どういう準備か。
結界を解いた後のこと。
負の力が満ちている森に入った場合の対処。
その力の元にあった時にどうするのか。

22）娘は疲れている。
↓
※何故、疲れているのか。
力を使い切ったから。
↓
※何故、使い切ったのか。
制御できない程の力を出した。
↓
※何故、そこまで力を使ったのか。
そうでもしないと結界が解けない。

23）刑事は状況を見て、改めて出直すと言って去る。
↓
※どういう状況か。
23・22）参照。

↓
※何故、出直すのか。
この状況では結界の解除はできない。
別の手段で破り、中に入る手段を模索していく。
もしかしたら、資料にその手段が書いてあるかもしれない。
↓
※資料とは何か。
16・1）参照。

24）宮司は娘に家に戻るように言う。
↓
※何故、戻るように言うのか。
結界から守り、それを破る手段はある。
↓
※何故、最初からそれをやらなかったのか。
入った先に戻れるかどうか、戻せるかどうかもわからない。
確実に人を失いかねない、危険な手段を取るのはあまりにも危険が高すぎるので取らなかった。

25）娘は了承してついていく。
↓
※何故、了承したのか。
何の準備もしないでいくのは無謀だと、彼女自身も分かっているから。
↓

※分かっていながら、何故結界を解こうとしたのか。
25・20）参照。

26　廊下。

1）娘と宮司が歩いている。
↓
※何処に向かっているのか。
母親がいた部屋。

2）宮司は部屋に来て、開ける。
↓
※何故、部屋に入るのか。
母親が残したものを託すため。
↓
※母親が残したものとは何か。
外の霊力から身を守る事、内からの力を増幅させる物。

27　母の部屋。

1）娘と宮司が入って来る。
↓
※何故、宮司が来るのか。
26ー2）参照。

2）宮司は、棚を開いて母親が着ていた巫女装束と、清められている米を見せる。
↓
※何故、棚にあるのか。
巫女装束は大事にしなければならないため。

↓
※何故、見せたのか。
清めている。
これを着れば内からの霊力を増幅させ、外からの霊力を守る程度に持つ。
↓
※何故、清めていたのか。
負の力が強まった時、使う事になるだろうと見越していた。
↓
※どういう時に使うのか。
負の力が強まった時に率先して抑えるため、使うであろうと思っていた。
↓
※何故、姪に着せなかったのか。
サイズが合わないから。

3）宮司は、負の力の正体と神楽舞の中、米で清め霊力を呼び起こして清めるように言う。
↓
※負の力の正体とは何か。
先祖を慕っていた巫女が、力の誘導に失敗した時に表した力。
その巫女の霊力と思念であり、思念は元来自然に溶け込み、霊力はあるべきところへと帰っていく。
それが束縛されるほど強力な力であり、それを開放すれば元来の状態に戻る。

大地の恵みの象徴である米を撒いて簡易的な結界を張り、無尽蔵に拡散する負の力を固定させている間に開放する。

↓

※何故、今までそれが出来なかったのか。
圧倒的な力により入ることは出来ず、外から封じることで全て解決してきた。
入れたとしても戻ることが出来ず、戻ってもいないので無駄と判断してきた。
22・24）参照。

↓

※何故、知っているのか。
15年前の祭りの際、調査してある程度の結論が出た。
中に入る危険性を考えるならば、外から固める方が犠牲が少なくて済む。
少なくとも、未来を生きようとする子供達を犠牲にしたくない。

4）娘は、巫女装束を見て泣き崩れる。

↓

※何故、巫女装束を見て泣き崩れるのか。
宮司が夫として何も出来なかったと辛い思いをしてきた。
思いを隠し通してきたことを知らなかったこと。
全てが宮司が未来のため、子供の未来を守ろうとした結果であり、自分がそれを崩そうとしていることに気づいたから。

5）宮司は部屋を出ていく。

↓

※何故、出ていくのか。
渡すものは渡し、子供の意志に全てを託すことに決めたから。

↓

※何故、託すのか。
今までのやり方では何も変わらず、引き延ばしているだけに過ぎない。
新しいやり方を子供に託すことにした。

28　翌日、森の近く。

1）神楽祭りの準備が行われている。

↓

※どういう準備か。
祭りの準備で、露店や通路等の打ち合わせが行われている。

2）刑事は森の中に入ろうとするが弾かれる。

↓

※何故、入ろうとするのか。
2・8）参照。

↓

※何故、弾かれるのか。
結界により弾かれる。

↓

※どうやって解こうとしたのか。
お守りや清めの道具を使った。

↓
※何故、持っているのか。
資料から、有効と思われるものを片っ端から用いた。
↓
※どの資料か。
16・1）参照。

3）ガキ大将と子供が来て、刑事に謝る。
↓
※何故、謝ったのか。
子供を森に入れてしまったこと。
↓
※何故、入れたのか。
1・2）参照。

↓
※何故、刑事が子供の父親と分かったのか。
警察から話を聞き、刑事が子供の父親と分かったから。

4）刑事は子供を諭し、必ず子供を取り戻すといって遊ぶよう約束を取り付ける。
↓
※どう諭したのか。
たった一度、気分で行った過ちを取り戻すのに何倍も時間も労力もかかる。
取り戻せないかもしれない。
だからこそ、過ちは犯してはいけない。

↓
※何故、約束を取り付けるのか。
自分の家族はここに来たばかりで、子供も友達がいない。
そんな中で遊び相手になってくれたガキ大将に感謝している。
これからも遊んでくれるかと。

5）ガキ大将達は約束する。
↓
※何故、約束したのか。
自分達の過ちを責めない代わりとして、刑事から言われたため。
なんだかんだ言って、子供を心配している。

6）宮司と牧師は氏子に指示を出しつつ、神楽殿での行動について話をする。
↓
※どういう事か。
神楽祭りの際、何かあった場合どうするのか。
その為にどうするべきなのか。
↓
※何かとは何か。
負の力が現れた場合。
↓
※どうするのか。
提灯などに周囲一帯に簡易的な結界を張り、守り切る。

7）修道女は退屈そうに牧師の後をついて宮司の説明を聞いている。

↓

※何故、聞いているのか。

牧師に呼ばれ、解呪の方法について教えているため。

負の力を含め、様々な状況に対応する際対処できるから。

↓

※何故、解呪が出来るのか。

元々、牧師から教えてもらっている。

↓

※何故、退屈そうなのか。

娘と遊べないから。

↓

※何故、遊べないのか。

神楽祭りの打ち合わせや資料の整理、稽古の指導で互いに忙しくなったから。

8）牧師は修道女を呼び、話をする。

↓

※どんな話か。

結界における解呪の方法。

↓

※何故、教えるのか。

結界が解除された場合、対処するようにするため。

↓

※何故、結界が解除されるのか。

娘が祭りの時に結界を解除する。

↓

※何故、祭りの時に解除するのか。

大地の力が活性化している時、その力を集中させて解除する。

29　神楽祭り当日、参道。

1）多くの人で賑わう。

↓

※何故、賑わうのか。

祭りが15年ぶりに再開されたから地元の人間が集まってきた。

↓

※何故、再開されたのか。

3・5）参照。

2）人混みの中、修道女は禰宜に話を聞いて娘のいる家に向かう。

↓

※何故、家にいると分かるのか。

宮司や禰宜に聞いた。

↓

※何故、娘のいる家に向かうのか。

一緒に祭りを見に行くため。

結界を解いた際、守るように牧師から言われている。

↓

※何処で言われているのか。

26－4）参照。

↓
※何故、家にいるのか。
結界を解く為、家で着替えて準備している。

30　当日、部屋。

1）娘は着替えを終える。
↓
※何故、着替えたのか。
巫女舞の際、森の結界を開放するため。
↓
※何故、結界を開放するのか。
森の中に入るため。
↓
※何故、森に入るのか。
森の中にある負の力を断ち切るため。

2）巫女から、修道女が来ていると知らせが入る。
↓
※何故、連絡が入るのか。
修道女が入って来たため。
↓
※何故、入って来たのか。
26－1）参照。

↓
※何故、巫女がいるのか。
神社で祭りの手伝いをする女性＝巫女。

3）修道女が来る。
↓
※何故、修道女が来るのか。
待ちきれなかった。

4）修道女は巫女装束の綺麗さに驚き、祭りを見に行くように引っ張る。
↓
※何故、見に行くのか。
26－1）参照。

30　神楽殿。

1）巫女舞が始まる。
↓
※何故、始まるのか。
祭りのプログラムだから。

2）二人は森に向かう。
↓
※何故、森に向かうのか。
結界を解除し、森の中に入るため。

↓
※何故、森の中に入るのか。
22－4）参照。

↓
※何故、修道女も一緒に行ったのか。
娘と共に向かい、サポートするよう牧師に言われた。
↓
※何処で言われたのか。
27－4）参照。

3）警備をしている警察達に止められる。
↓
※何故、止められるのか。
森近辺は立入禁止であり、氏子と警察により封鎖されている。
↓
※何故、立入禁止なのか。
2－1）参照。
事故があったため、封鎖している。

4）刑事が来て、二人に事情を聞く。
↓
※何故、刑事が来るのか。
警備を任されていたため。
↓
※何故、任されていたのか。
19－4）参照。

↓
※何を聞いたのか。
二人が何を目的にここに来たのか。
↓
※何のために来たのか。
22－4）参照。

5）刑事は事情を聞き、了承すると森の前まで案内する。
↓
※どういう事情か。
森の結界を相殺し、一時的に解く。
↓
※何故、解くのか。
森に入るため。
↓
※何故、森に入るのか。
全ての元を断ち切る為。

↓
※刑事は何故、了承したのか。
刑事としては森の中に入った息子を取り戻したい。
その為、結界を開放するという目的に合致した。

31　森の前。

1）娘は結界を解除する。
↓
※どうやって解除するのか。
活性化された大地の力と、自分の霊力を合わせて霊木の力を相殺する。
↓
※誰から教わったのか。
八想家に代々教わる力と活性化した大地の力を複合し、僅かに外す程度なら出来る。

2）結界が解け、無数の黒い蛇が流れ込む。
↓
※何故、解けるのか。
31・1）参照。

↓
※何故、流れ込むのか。
溜め込まれた負の力が開放されたため。
↓
※開放された力は何処に向かうのか。
神楽殿。
↓
※何故、向かうのか。
開放された力は力の強い所に向かい、取り込もうとする。
↓
※何故、取り込もうとするのか。
力を維持する為、力の強い所に向かおうとする。
↓
※何故、力を維持するのか。
負の力は欲望の力の一つで、その根源が存続だから。
↓
※何故、力の一つなのか。
元々は人が起こした力で、その本能を表している。

3）娘と修道女は森に入る。
↓
※何故、森に向かうのか。
23・14）参照。

4）刑事も中に入る。
↓
※何故、中に入るのか。
2・10）参照。

5）結界が閉じられようとするが、負の力がなだれ込む。
↓
※何故、結界が閉じられるのか。
霊木の力により結界が修復された。
↓
※何故、修復されたのか。

霊木の力の作用による自然作用で、解く力がなくなったために元に戻ろうとした。

↓
※何故、負の力がなだれ込むのか。
31・2）参照。

32　神楽殿。

1）神楽殿に無数の黒い蛇が飛んでくる。
↓
※何故、飛んでくるのか。
31ー2）参照。

2）人々は混乱し、姪は舞を止めて恐怖に慄く。
↓
※何故、混乱したのか。
誰でも力の流れを感じ取れるほど、強力な力が流れてきたから。
↓
※どういう流れか。
大地を食らう力で、乾いた突風を伴い無数の黒い点で蛇を構成している。
姪は霊力があるので、その力が見えるし感じ取ることも出来る。
その為、尚の事恐怖する。

3）神楽殿天井や周囲に広がる提灯が結界となり、黒い蛇を打ち消す。
↓
※何故、結界となったのか。
準備の段階で牧師と宮司が結界を張った。
↓
※何処で結界を張ったのか。
28・3）参照。
宮司が氏子全体に指示した。

4）姪や人々はうつ伏せの状態で驚く。
↓
※何故、驚いたのか。
黒い蛇が結界にぶつかって消え、弾かれているから。

5）神楽殿に宮司と牧師が来て姪の様子を見る。
↓
※何故、宮司と牧師が来るのか。
姪の様子を見るため。
↓
※何故、様子を見るのか。
姪は霊力があるため、負の力に影響されやすいから。

↓
※何処にいたのか。
神楽殿近辺で見回していた。

6）牧師は結界が解かれた事を話し、戻ってくるか問う。
↓

※何故、問うのか。
結界が解かれたという事は娘が森に入った。
戻ってくるのかどうかわからないので、その保証があるか尋ねた。

7）宮司は娘次第と答える。
↓
※何故、そう答えたのか。
子供は自分勝手な生き物だと思っている。
↓
※本音はどうなのか。
出来ることはやり尽くした。
必ず戻ってくると信じている。

8）ガキ大将達は混乱し、警備の警察に刑事について尋ねる。
↓
※何故、尋ねたのか。
取り戻すといった刑事がいなくなれば、子供を取り戻す事が出来なくなるため。

9）警察は刑事に連絡を取ろうとするが、取れない。
↓
※何故、取れないのか。
刑事は森に入ったから。

10）警察は連絡を取り合い、刑事を探すように指示を出す。
↓
※何故、連絡を取り合うのか。
刑事の行方がわからないということは何かあったということ。
さっき起きた出来事に関連しているのかもしれない。

33　森。

1）不気味な瘴気と、黒い蛇が渦巻いている。
↓
※何故、満ちているのか。
負の力が常時発生している。
↓
※何故、発生しているのか。
27・2）参照。

↓
※3人は力に飲まれないのか。
修道服と巫女服により守られている。
刑事は、結界を突破するためと称して様々な守りを身に着けている。

2）3人は、瘴気の強い方へと向かっていく。
↓
※何故、向かっていくのか。
瘴気の強い所こそ、負後からの根源だから。
根源を断ち切れば、全て終わると判断している。

3）黒い蛇に覆われた子供を見つける。

↓
※何故、子供がいるのか。
1・8）参照。
中に入った子供を取り込み、負の力の糧にしようとしている。
↓
※何故、負の力の糧にするのか。
31・2）参照。

4）刑事は助けようと持ち上げるが、重く持ち上げられない。
↓
※何故、助けようとするのか。
自分の子供だから。

↓
※何故、持ち上げられないのか。
負の力に縛られていて、その力で持ち上げられない。
刑事は霊力がないので、その力が見えない。

5）修道女は助けないように言う。
↓
※何故、助けないように言うのか。
負の力と魂が接続されていて、無理に剥がせば剥離してしまう。
そうなれば魂は肉体から離れ、二度と戻らなくなる。
↓
※何故、剥離するのか。
上記参照。

6）刑事はどうすればいいのかと聞く。
↓
※何故、聞いたのか。
子供が動かせないため。
↓
※何故、動かせないのか。
31・4）参照。

7）娘は負の力を取り除けば動かせるという。
↓
※何故、負の力を取り除けばいいのか。
負の力の根源を取り除けば、全て消える。
そうなれば動かせる。

8）刑事はここに留まるという。
↓
※何故、留まるのか。
息子の様子を見守りたいから。
↓
※何故、見守りたいのか。
子供を助けるのが自分の目的であり、取り除くさなかに異変があった時に対処できないから。

9）修道女も同意する。

↓
※何故、同意するのか。
このまま霊力のない人間が奥に向かっても迷惑にしかならない。

10）娘は、修道女に留まるように言う。
↓
※何故、留まる様に言うのか。
霊力が見えない人間では、何かあっても対処できないから。
↓
※娘はどうするのか。
自分は大丈夫だからと言う。

11）修道女は否定するも娘に強く言われる。
↓
※何故、否定するのか。
一緒にいたいから。
↓
※何故、一緒にいたいのか。
一緒にいないと娘に何かあるかもしれない。
サポートをし続けたい。

↓
※娘は何を言ったのか。
絶対戻ってくる。
親友として信じて欲しい。

12）修道女は同意して留まる。
↓
※何故、同意したのか。
娘を信頼しているから。

13）娘は奥に向かう。
↓
※何故、奥に向かうのか。
負の力の元に向かい、断ち切るため。
↓
※何故、断ち切るのか。
22・15）参照。

34　森の奥。

1）負の力が木に束縛された状態で固定していて、周囲一帯へ伸びている。
↓
※何故、木に束縛された状態であるのか。
かつて負の力を開放した少女で、負の力の元になっている。
↓
※何故、負の力を開放したのか。
大地の力を戻そうとした際、自分の内にある負の力が開放されてしまいそのまま流れてしまった。

↓

※どういう状態か。
少女の姿をした魂が木のつるに捕縛されている。

2）娘は負の力に飲まれそうになりがらもこらえ、米を撒く。
↓
※何故、飲まれそうになるのか。
圧倒的な力の前に、自分が飲み込まれそうになる。
↓
※どうやってこらえたか。
巫女装束の加護。

↓
※何故、米を撒くのか。
米の力で負の力を一時的に清め、簡易的な結界を張る。

3）魂が現れ、何故ここに来たのか尋ねる。
↓
※何故、現れたのか。
負の力に囚われたかつての巫女で、負の力が一時的に払われ開放されたために現れた。
↓
※何故、負の力に囚われたのか。
かつて、父の指示で大地の力を戻すために霊力を開放した。
しかし、そこに現れたのは父親を殺した人間と、大切な人を傷つけていた状態だった。
父親が殺された事実を知ったこと、大切な人を傷つける人間を守るのかという葛藤から負の感情が湧きあがり、その力が大地の力と混じり負の力となった。
我に返った自分はその力が森から流れないよう、固定するため魂を大地に打ち付けた。
しかし、それを持ってしても食い止められず、逆に負の力は自分の魂を媒介し、強くなっていった。
負の力により相殺されるはずである正の力を司る理性も抑え込まれ、負の力を撒き散らす核に成り果てている。

↓
※何故、尋ねたのか。
負の力が満ちるこの場所に何故、態々立ち入ろうとしたのか。
その状態で、どうしてこの中心部まで来たのか。

4）娘は、全てを終わらせるためと答えて舞を始める。
↓
※全てとは何か。
過去から今に至るまでの全ての犠牲を繰り返すこと。
↓
※何故、終わらせるのか。
母親の死の様な悲劇を持って、引き伸ばし繰り返すことはしたくない。

↓
※何故、舞を始めたのか。
大地の力でもって鎮魂を行う為。
↓
※どういう舞か。
鎮魂の舞。

遊離する負の力を完全に固める。

5）魂は黒い蛇に変わる。
↓
※何故、変わるのか。
結界が解け、負の力により取り込まれた魂になる。
↓
※何故、結界が解けたのか。
簡易的な結界に過ぎず、負の力が充満しているのですぐ解ける。

↓
※何故、答えなかったのか。
答える間もなかった。

6）黒い蛇が娘に向かっていき、魂を取り込もうとする。
↓
※何故、魂を取り込もうとするのか。
正の力を持つ者を取り込み、負の力に染めて力にしようとする。
↓
※何故、取り込もうとするのか。
負の力は存在し続けたいという欲があるため。

7）拡散した母親の魂が娘の元に集まり、黒い蛇が引きちぎられる。
↓
※何故、呼び寄せられるのか。
娘の霊力に反応し、森に拡散した母親の魂が引き寄せられた。
↓
※どうやって引きちぎられたのか。
白い粒子が黒い蛇に入り込み、破裂するように消滅する。

8）母親の魂が集まって姿を表す。
↓
※何故、姿を表したのか。
森に集っていた魂が集まり、母親の姿を作り出した。
↓
※何故、母親の魂が現れたのか。
32―8）参照。

↓
※娘はどうしたのか。
母親の姿に驚く。

9）母親は魂を見て舞を促す。
↓
※何故、舞を促すのか。
たまふりの舞を促し、全てを開放するように求めたから。
↓
※何故、促したのか。
全てを開放し、終わらせるという娘の方針に同意したから。
↓

※何故、同意したのか。
このままでは引き伸ばしでしかない。
娘は中に入り、全てを終わらせようとした。
その意志は森を介して伝わった。

10）娘はたまふりの、母親は鎮魂の巫女舞を行う。
↓
※何故、たまふりの舞を行ったのか。
鎮魂は魂を沈めて固定化させるもので、逆にたまふりは魂を高ぶらせ開放する舞である。
娘は大地の力を引き出し、母親は負の力を固定化させた。
↓
※負の力はどうなるのか。
負の力は高ぶった正の魂に飲まれ、相殺されていく。
肉体と遊離した魂は、あるべきところへと帰っていく。

↓
※どう逆に行ったのか。
回転を逆に行う。
手順は一緒。

11）大地の力が開放され、負の力が消滅していく。
↓
※何故、開放されたのか。
大地の力が舞により活性化した。
↓
※何故、今まで開放されなかったのか。
結界により遮られていた上、霊力が高くなかった。

↓
※どう開放されたのか。
無数の花びらが舞い散り、負の力を相殺していく。
↓
※何処から花びらが来たのか。
大地の力の活性により、大地に根ざす花が舞い散った。

12）魂は本来の姿に戻り、娘の手を取り消滅する。
↓
※何故、本来の姿に戻ったのか。
負の力が消滅し、本来の魂に戻った。

↓
※何故、娘の手を取ったのか。
懐かしい感じがしたから。
↓
※何故、懐かしいと思うのか。
慕っていた人の意思を引き継いでいる。
魂となった彼女には、はっきりと分かる。

↓
※何故、消滅したのか。

魂が開放され、あるべきところへと帰った。

13）娘は疲れが出て、へたり込む。
↓
※何故、へたり込むのか。
舞が終わり、力を使い果たしてへたり込む。
↓
※何処で力を使ったのか。
舞により、力を開放した。

14）母親の霊は娘の手を取る。
↓
※何故、手を取ったのか。
まだやる事が残っているから。
↓
※何をやるのか。
修道女と刑事の救出と、森の脱出。

15）娘は手を取って起きる。
↓
※何故、起きるのか。
母親に励まされ、力を振り絞って起き上がる。

16）母親の霊は笑みを浮かべ、拡散して消えていく。
↓
※何故、消えていくのか。
肉体を離れた魂で、あるべきところへと開放されていく。

17）娘は、急いで修道女のいた所へ向かう。
↓

※何故、急いで向かうのか。
二人の様子を見るため。
↓
※何故、様子を見るのか。
二人の様態が気になった。

35　森。

1）修道女が抑える中、黒い蛇が消える。
↓
※何故、消えたのか。
魂が開放されたから。
34・11）参照。

↓
※何故、修道女が抑えていたのか。
力を使って抵抗できるのが彼女しかいないから。

2）刑事は子供を持ち上げる。
↓

※何故、持ち上げたのか。
子供を取り巻く黒い蛇が消えたから。

3）娘が来る。
↓
※何故、来たのか。
34・17）参照。

4）娘は二人に森を出ていくよう促す。
↓
※何故、促すのか。
もうここに用はないから。
↓
※何故、用がないのか。
負の力が開放され、森に留まる意味がないから。

5）森を出ていく。

36　森の前。

1）森から抜ける。
↓
※何故、抜けるのか。
35・4）参照。

2）ガキ大将達が警察とともに刑事の元に寄ってくる。
↓
※何故、寄ってきたのか。
32・10）参照。
子供が心配で警察とともに捜索していた。

3）ガキ大将達は、抱えている子供を見て喜ぶ。
↓
※何故、喜ぶのか。
心配した子供が戻ってきたから。

4）刑事は上司に怒られる。
↓
※何故、上司がいるのか。
神楽殿で混乱が起きたにも関わらず、戻らなかったから飛んできた。
↓
※どういう混乱か。
32・2）参照。

5）神楽祭りの再開アナウンスが流れる。
↓
※何故、アナウンスが流れるのか。
何事もなく元に戻ったから。
↓
※何故、元に戻ったのか。
32・12）参照。

6）宮司と牧師が来る。

↓

※何故、来るのか。

戻ってきたという知らせを受けたから。

↓

※何故、知らせを受けたのか。

警察が知らせた。

↓

※何処で知らせに行ったのか。

36・2）参照。

ここで戻ってきた刑事たちを見て、宮司のもとに知らせに行った。

6）桜が舞い散っている。